

【提案概要】環境都市「豊岡エコバレー」と大交流による人口減少下での経済成長の達成 (地元地域資源活用型)

地域活性化モデルケース(地域産業)としての位置づけ

コウノトリと共に生きるまちづくりと平成16年台風23号の被害で再認識した「自然と折り合いをつけた暮らし」の重要性と、産業連関表作成による分析を踏まえ、環境と経済が共鳴する事業による環境・経済の持続的成長策と、城崎温泉・城下町出石のまち並みを守り、磨き上げ、その良さを伝えること等による交流人口増加策は、財源の乏しい地方都市による、その個性を生かした戦略的な経済振興策である。

現状分析(地域の経済・産業の実態等)

- ・市内総生産(名目) 平成9年 3,315億円⇒平成21年2,590億円 (▲21.8%)
- ・製造品出荷額等 平成3年 1,553億円⇒平成21年1,033億円 (▲33.4%)
- ・観光客入込数 (日帰り)平成6年516万人⇒平成21年358万人(▲30.6%)
(宿泊)平成6年193万人⇒平成21年114万人(▲40.9%)
- ・市内人口 平成2年96,448人⇒平成22年85,592人(▲11.2%)



地域経済の危機！
↓
豊岡市経済成長戦略策定(H21)

地域の経済・産業の成長に向けた将来像(ビジョン)

地域資源を守り、磨き、伝え、人口減少下での経済成長を実現する
(市内総生産 H19:2,784億円 ⇒ H31:2,867億円)

- 分野別数値目標 ①製造品出荷額等:1,300億円以上 ②宿泊客数:170万人以上 ③小売販売額:1,000億円以上
④市内高校生等の地元就職率:80%以上 ⑤若者の地元定着率:90%以上

環境都市「豊岡エコバレー」

環境に優しく、暮らしも豊かなまちになる

- ①環境を意識し、環境に取り組む企業、市民が増えている
- ②コウノトリ育む農法が広がっている
- ③自然と折り合いをつけたライフスタイルを楽しんでいる
- ④環境を軸に、市内で新しいビジネスが生まれている
- ⑤商工団体、金融機関、豊岡市の連携による企業支援体制が充実している。
- ⑥環境経済事業の売上げが増えている
- ⑦市民が環境経済商品を購入している

大交流

世界中から人が集まり、賑わい活気にあふれている

- ①知名度、認知度が上がっている。
- ②興味、関心が高まっている。
- ③必要な情報がターゲットにリーチしている。
- ④競合観光地に対し優位性を持っている。
- ⑤簡易に予約し購入できる体制が整っている。
- ⑥地域の魅力が満喫されている。(観光客が市内を周遊し、お金が落ちている)
- ⑦顧客満足度が向上しリピートが増えている。